

NVS の Satellitism test にストリークする *Staphylococci* の検討

◎古垣内 美智子¹⁾、江口 香織¹⁾、戸田 宏文¹⁾、松浦 宏美¹⁾、前田 和成¹⁾、山口 逸弘¹⁾、中江 健市¹⁾
近畿大学医学部附属病院¹⁾

【目的】Satellitism test は nutritionally variant streptococci の同定や viridans streptococci や *Gemella* 属との鑑別に重要である。羊血液寒天培地とストリークする *staphylococci* があれば少量の集落で実施可能であるが、培地の選択を誤ると誤判定に繋がる。今回、satellitism test にストリークする *staphylococci* の菌種の影響について検討した。

【対象と方法】対象は *Granulicatella adiacens* 24 株、*Granulicatella elegans* 4 株、*Abiotrophia defectiva* 3 株の計 31 株とした。Satellitism test の培地は極東製薬羊血液寒天培地（極東 SBA）、日水製薬の羊血液寒天培地（日水 SBA）を用いた。ストリークする *staphylococci* は *S. aureus* ATCC 25923、*S. aureus* ATCC 29213、*S. epidermidis* ATCC 12228 の 3 菌種を用いた。Satellitism test の方法は少量の集落を血液寒天培地に上から下へ画線後、*staphylococci* を垂直にストリークしたものを 5% 炭酸ガス培養下で 24 時間、最終 48 時間で判定した。【結果】極東 SBA と *S. epidermidis* ATCC 12228 の組み合わせのみ 100% satellitism 陽性（ストリークした *staphylococci* の周囲のみに

NVS が発育）を確認できた。一方、極東 SBA と *S. aureus* ATCC 29213、極東 SBA と *S. aureus* ATCC 25923 の組み合わせでは、24 時間で各々 96.7%、12.9% が非特異反応（ストリークした *staphylococci* と NVS の発育の間に NVS 非発育の溝ができる現象）を示した。日水 SBA は単独で発育する NVS が多く satellitism test には不向きであった。非特異反応は日水 SBA と *S. aureus* ATCC 29213 の組み合わせでは 24 時間で 93.5% であった。【考察】*S. epidermidis* ATCC 12228 では非特異反応は見られなかった。非特異反応の理由として、*S. aureus* が産生するバクテリオシンが考えられたが、原因物質は追及できていない。また Clinical Microbiology Procedures Handbook には satellitism test のストリークに *S. aureus* ATCC 25923 の使用を明記していること、各検査室に精度管理株として *S. aureus* ATCC 25923 や *S. aureus* ATCC 29213 は所持していることから、これらの菌種が使用される可能性が高い。以上から satellitism test に使用する培地は勿論、ストリークする *staphylococci* にも注意が必要である。連絡先 072-366-0221 (2193)